Title: 教団新報4869最終.eca Page:1 Date: 2017/10/03 Tue 10:34:01

教団新報

定 価 1部144円（本体133円〒共206円）
予約購読料 1年分 〒共 5,150円
紙代のみ 3,600円
振替 00140―9―145275
本紙を購読ご希望の方は、前金をそえて、お近くのキリスト教書店へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館内 電話03(3202)0546
FAX03(3207)3918
URL http://uccj.org
発行人 道家紀一
編集主筆 渡邊義彦
印刷所 株式会社きかんし

右：ファミリーサッカースクール
左：日語部巡礼の旅（トゥーリーレイク日系人強制収容所跡地にて）

在外宣教師からの報告

アメリカ

キリストとの出会いを与える「種蒔き教会」として

カリフォルニア・シカモア組合教会

私に与えられている働きは、アメリカの地における日本語での宣教である。「外国人」として生きる海外生活者は、たとえその地の言葉を流暢に使い、その地の文化に深く溶け込める人であったとしても、やはり母国語を愛し、母国の文化に触れることができるコミュニティーを求めている。

シカモア組合教会は、1904年の創立以後、そうした人々の心に寄り添いながら、日系移民1世や2世の人たちを中心に歩みを進めてきた。しかし、3世の時代になると、日本語を話すことのできる日系人は激減する。そこで教会は、英語部を創設し、日語部と英語部に分かれて、一つ屋根の下で共に宣教を担うようになってきた。時代の変化に対応して、教会は「日本人教会」から「日系教会」へと形を変えたのである。

ところが、日本語を話す2世の方々が高齢化し、召される人々も多くなってくると、日本語での宣教の必要性も減少してくる。そのような中、シカモア教会の周辺にあったいくつかの日系教会は、日語部の閉鎖へと追い込まれた。この時代において日系教会が日本語での宣教を続けていくためには、再び時代の変化に対応した、新しい宣教ビジョンを見出していく必要があるのだ。

幸い、シカモア教会が置かれている地域には、多くの日本人留学生や研究者が集う大学があり、また企業などから派遣された駐在者も多くいる。そこで教会は、教会を日本人コミュニティーの場としても広く認識してもらうために、日本の文化や日本語を大切にした様々なイベントを開催し、それを日本語の地域新聞やネット掲示板に掲載することなどを始めた。すると、それらの情報が口コミでも広がり、人が人を呼ぶような形で、一時滞在者の日本人が多く教会の扉を叩いてくれるようになってきたのだ。

入口が、日本の文化や日本語のコミュニティーへの関心であったとしても、そこから徐々に、礼拝に繋がる人々も出てきている。彼らのほとんどが日本でキリスト教に触れたことのない人々である。そのことを考えると、「外国」という環境だからこそできる、日本人への宣教というものがあるのだということに気づかされるのだ。

シカモア教会にとって、彼らの多くは一時的な短期滞在者であり、良き出会いが与えられてもすぐに、また別れを言わなければならないような人々である。しかし最近、その彼らが後に日本に帰国しても、なお教会に繋がり続けているという嬉しい報告を聞くようになってきた。

私たちの教会には、日本においてキリスト教に触れることのなかった人々にキリストとの出会いを与える、「種蒔き教会」のような特別な働きが与えられているのだと思っている。

アメリカの地で種蒔かれた福音が、やがて日本において芽を出し、実りを迎えることを願いつつ、これからも新たな出会いと別れを繰り返し、与えられた使命を果たしていく教会でありたいと思っている。

（吉岡恵生報）

ベルギー

母国語で礼拝をささげられる場所

ブリュッセル日本語プロテスタント教会

4月よりベルギー、ブリュッセル日本語プロテスタント教会に遣わされた。2016年3月末に、9年間仕えた長野・飯田吾妻町教会を辞して東京に拠点を移し、約1年間の渡航の準備を経て無事にベルギーに着任した。この1年で東京を中心に多くの教会を訪ね、礼拝に出席させてもらった。また説教奉仕、ベルギー宣教のアピール等の機会を与えられ、祈りと支援をお願いしてきた。いずれの教会でも温かく迎えてもらったことは、本当に感謝に堪えない。難航する準備にともすれば挫けそうになるところを、励ましの言葉をかけてくれる方々に力をもらいながら準備を進めてくることが出来た。

海外宣教の働きは、その経済的必要のほとんどを日本で支援してくれる方々からの献金でまかなわれている。現在400名近い方たちの物心共なる支えによってベルギー宣教は進められている。これほど多くの助けが与えられているということに改めて驚き、主なる神と皆さんに心より感謝している。

着任以降、教会はゆっくりとではあるが着実に歩みを進めている。約2年半近い専従牧師の不在、駐在員の教会メンバーは数年単位で帰国してしまうという海外教会特有の傾向、教会員の減少、役員会の不在等の現状から少しずつ前を向いて踏み出している。それに伴い、新来者が導かれたり、しばらく離れていた教会員が再び礼拝出席に導かれたりと、小さな喜びが積み重ねられている。共に母国語で礼拝をささげ、語り合うことの出来る主の日は海外に住む日本人にとって代えがたい喜びの日であることを目の当たりにしている。

今後の課題としては、この教会に与えられている使命が何であるのか、その与えられた使命に対して一人一人がどのように仕え応えていくのかを、聖霊と御言葉の導きを通して教会全体で学んでいくことだと思っている。今一度、御言葉と聖霊による導きを強く祈り求めながら、この教会と教会に結び合わされた一人一人に与えられた神からの使命を受け止めてゆきたいと願う。また、この宣教の働きを祈りと経済的支援によって支えてくれる多くの教会と兄弟姉妹の祈りに支えられながら、神の御業がここで現わされることを信じ、主の導きに従ってゆきたい。

最後に、私たちも含め海外に派遣されている宣教師の霊的かつ肉体的な健康のために祈ってもらいたい。祈りは単なる慰めではなく、神の力そのものである。どうぞ主にあってよろしくお願いしたい。

（川上寧、川上真咲報）

上：ブリュッセル・ヴォルヴェ・プロテスタント福音教会、ステファン・オレンジ主任牧師と川上寧、川上真咲両牧師
下：礼拝後のお茶のひととき

荒野の声

9月の暦にある敬老の日に合わせて、幼稚園ではおじいちゃん、おばあちゃんを招いてのプログラムを準備している。全ての祖父母が参加できるわけではない。住まいが遠かったり、高齢で移動が難しかったりだ。そこで、誰々ちゃんのおじいちゃん、おばあちゃんということではなくクラス全部で参加してくれた方たちをもてなすことを考えているようだ。▼イスラエルの民は、シナイ山にて、父母を敬え、と教えられた。父母を敬うことは当然であったであろうが、改めて教えられることに意味があろう。わたしがここに存在し、生きているのは、一人の父が必ずいて、一人の母がいてくれたからだ。たとえ敬うことの出来ないような父母であったとしても、結婚がどのようなかたちであろうとも、わたしのはじまりに父がいて、母がいる。祖父母を敬うことは一世代置いているとは言え、やはり父母を敬うことである。わたしたちの隣人関係のはじまりに父と母がいてくれる。▼神の救いの御業がわたしにまで伝えられるに人と人のつながりがあった。一人が欠けてもわたしたちにまで福音は伝わらなかった。信仰における父母、祖父母たちがいてくれる。

Title: 教団新報4869最終.eca Page:2 Date: 2017/10/03 Tue 10:34:05

▼教区青年担当者会・教育委員会▲

KGK総主事・大嶋氏により講演

《教区青年担当者会》

第7回教区青年担当者会は9月4～5日、教団会議室で開かれ、26名が出席した。

1日目は具志堅篤委員長の開会礼拝後、各教区・団体からの出席者による自己紹介が行われた。その後、講師の大嶋重徳氏（KGK総主事）より「若者に届く説教を目指して」と題して講演がなされた。ルカによる福音書におけるエマオ途上のキリストを通して、若者に寄り添うこと、届く言葉で若者に語ることの在り方が説き明かされた。また、多角的な視点からなされる具体的なアドバイスは、若者への説教のみならず牧会についての大きな示唆であった。

講演後は8月に開催された「リフォユース500」の報告が増田将平実行委員長よりなされ、2018年3月に開催予定の青年大会の告知もなされた。続いて各教区等から報告がなされ、青年に対する働きの課題と実りが分かち合われるひとときとなった。

2日目は4つの分団に分かれて協議を行った。教団として青年への伝道・牧会をどう捉えていくか、どのような組織が必要であるのか、かなり踏み込んだ議論がなされた。教団に青年のためのスペシャリストを置いてほしいこと、教会・教区・教団が連携をとりながらチームワークで青年を育成していくことが大切であること等の意見が多数出された。最後の全体会で、大嶋氏は「青年担当者はスーパースターにならなくていい。凡人であるべき」と語った。大切なのは特別な能力・魅力ではなく、誠実に寄り添い、語りかけていくことを改めて振り返る時となった。

「リフォユース500」や台湾・ドイツにおけるユースミッション等、2017年度は若者が中心となる大規模なプログラムが盛んに行われている。本当に、今、動くことの切実さが現れた2日間であった。

（望月麻生報）

若者への伝道、牧会を議論

《教育委員会》

第3回教育委員会は9月5～6日、教団会議室で開かれた。「第7回教区青年担当者会」の直後からの開催であった。

諸報告の中で、8月9～11日に行われた教会中高生大会「リフォユース500」の報告がなされた。これを良い機会と捉え、今後も継続させていきたい旨が話し合われた。今回の大会は全国から集まった多くの教職が大きな力となった。今後は遠方の教会・小規模の教会に仕える教職がこのような行事に奉仕しやすくなるように、参加費・交通費など最大限支援していければという意見も出された。

また、「幼稚園融資に関する件」として、融資について提出された返済計画書をめぐって議論がなされた。不十分な点が多々あることから、返済計画書の再度提出を10月末までに求めることとなった。

続いて18年1月29～30日に中京教会、金城学院で開催される教区教育担当者会・教会教育セミナーについて協議された。29日に行われる教会教育セミナーは「子どもに届く説教」として筧伸子講師による講演等が行われる。

また、「『台湾基督長老教会』（PCT）との青年交流プログラムの件」として、18年夏に実施予定の当プログラムについて話し合われた。青年が参加しやすい日程を絞り、なるべく早めに様々な調整を行い、実行委員会を立ち上げて案内を出すことが確認された。

最後に、当委員会直前まで行われていた第7回教区青年担当者会の振り返りが行われた。青年への働きを担う人材・組織の設置等、切実な求めに、いかに迅速かつ確実に取り組んでいくかが今後の課題である。残された時間がきわめてわずかであったため、次回委員会（18年1月30～31日）で具体的な案を出し合いながら、集中的に審議することとなった。

（望月麻生報）

▼教師委員会▲

教師継続教育研修会の主催を決定

第3回教師委員会は、9月4日、教団小会議室にて開催された。はじめに報告事項を幾つか扱ったが、その中で一つ記したいことは、「神学校日献金」が、この5年間減少を続けていることである。昨年は献金目標額500万円に対して250万円程であった。「神学校日献金」の減少は、教団の教師養成にとって大変気がかりである。祈りつつ諸教会に献金をよびかけていくことが必要である。

今回、特に重要な審議事項は、「教師継続教育研修会」に関する件であった。伝道推進室によって行われてきた教師継続教育「夏期研修会」は、今年8回目を迎えている。豊かで内容の濃い研修会であるが、教師委員会は後援というかたちで参加してきた。しかし、教師の継続教育は、教師委員会が担うことが必要ではないか、と思わされたのである。これまで教師委員会は、毎年6月に開催している新任教師オリエンテーションを行っているが、教師の継続教育の必要性が高まる今日、教師委員会に期待が寄せられている。

各委員が率直な意見を出し合って審議した結果、2018年度からは教師委員会が教師継続教育を主催することにした。開催場所はこれから検討していくが、2018年8月21～23日、2泊3日の予定で開催することとする。テーマとプログラムは、これから準備していくことになるが、教師になって10年位までの牧師を対象として企画していきたいと考えている。

その他、9月25～26日の2日間、教師委員会で福島の被災地教師問安をする計画を立てている。厳しい環境の中で仕えている教師たちを覚えたいのである。さらに、今年は神学校問安の年であり、10月に教団立東京神学大学をはじめ5つの認可神学校を訪問し、教団の教師養成のための貴重な働きへの感謝を伝えることにしている。

（古旗 誠報）

▼熊本・大分地震被災教会会堂等再建支援委員会▲

新たな補助金申請2件を承認

9月5日、第3回熊本・大分地震被災教会会堂等再建支援委員会が教団会議室で開催された。今回は、梅崎浩二九州教区議長の陪席が適わず、文書によって現況が報告された。6月の現地視察の報告書も参考にして最新の現状を確認した。

まず、建物修理が終了しているのは、大分地区は竹田教会、別府野口教会、熊本地区は熊本草葉町教会、錦ヶ丘教会（ただし、十字架塔は未着手）である。

この度、補助金を申請したのは由布院教会と別府不老町教会。

由布院教会は、既に工事は6月から始まり、現在進行中。クリスマス礼拝を新会堂で守ることを切望しており、11月末の最終支払いを前にしての補助金申請である。

別府不老町教会は、8月に工事が始まり、来年2月中旬の完成予定。10年前に購入した隣接地と牧師館集会所建築の返済がまだ残っている中での新会堂建築に不安を覚えつつの決断とのことであった。

それぞれの補助金申請を承認した。

八代教会はヴォーリズ社の「耐震診断」では教会堂・牧師館とも「補修・補強が望まれる」とのこと。築85年の会堂は信仰的・文化的遺産でもあることから改築ではなく「補強」の方向を検討中である。

隈府教会は、既に旧会堂は除去され、9月より新会堂の建築が始まっており、クリスマス頃の引き渡しを予定している。教会は、来年創立120周年を迎える。少人数ながら隈府の町の唯一のプロテスタント教会として新たな出発を願っている。

諫早教会は、壁や天井の穴の修復は終わったが建物ひび割れ、剥離が残ったままで、今後、少しづつ修繕していかねばならない。

その他の教会は、依然、業者の見積りも得られないところもあり、進展がない。

11月上旬までにニュースレターを発行し募金を呼びかけることを確認した。募金総額は8月末で、8592万6958円。

（田中かおる報）

教師検定試験公告

2018年春季教師検定試験を左記の要領で行います。

一、受験要綱の申し込み

受験要綱と教団指定の願書用紙は160円切手を同封し、正教師受験志願者か補教師（A、B、Cコースの別も）受験志願者かを明記した上、封書でお申し込みください。

なお、正教師受験志願者は「教師検定規則第12条②」によるものに限ります。

二、受験願書の提出

受験願書と必要書類を整えて、受験料とともに所属教区に提出してください。

①教区締切 2017年11月13日（月）

（教区により締切が早まる場合がありますので、教区事務所に確認してください）

②教団締切 2017年12月13日（水）

（各教区から教師検定委員会に提出する際の締切です）

＊受験料は正教師1万3千円、補教師1万円

三、補教師について

①「説教」「釈義」の課題テキスト

旧約 詩編1編

新約 コリントの信徒への手紙二 3章1～6節

②コースによって「説教」「釈義」の提出内容が異なりますので、必ず受験要綱でご確認ください。

③補教師（CⅢコース）の牧会学の課題

『牧会とは何か』について論述してください。

④Aコースについては、教師検定規則第4条第3号にもとづく試験が実施されます。

同対象者は、神学校を通して説明をうけ、それにもとづく手続をおこなってください。

四、正教師について

受験志願者は、直接教師検定委員会までお問い合わせください。

五、提出物（説教、釈義、牧会学等）締切について

当委員会への提出締切日は、2017年12月15日（金）午前必着です。

六、学科試験と面接試験について

学科試験は2018年2月20日（火）、面接試験は2月21日（水）、2月22日（木）に東京・日本キリスト教会館にて実施します。詳細は受験志願者に通知いたします。不明な点は直接、当委員会へお問い合せください。

2017年10月7日

日本基督教団教師検定委員会

〒169-0051

東京都新宿区西早稲田2-3-18-31

電話（03）3202-0546

Title: 教団新報4869最終.eca Page:3 Date: 2017/10/03 Tue 10:34:08

SMJ（Special Ministry to Japanese）米国日本人特別牧会主催
第40回ディスカバリーキャンプに参加して

7月22日～8月8日にかけてニューヨークにあるキャンプクイニペットで開催されたディスカバリーキャンプに9名の中高生と共に参加した。

この企画は4年前にSMJから被災地の学生を招待したい旨の申し出を受け、東日本大震災救援対策本部と宣教協力学校協議会の後援により実現し、今年で3年目になるが、救援対策本部の後援は今年で最後となる。日本からは岸ひかりさん（千葉本町教会）が私と同じ日本側リーダーとして参加した。

ニューヨーク・マンハッタンで

ニューヨーク周辺の日本語教会を通じて現地の学生の参加もあり、参加者総数は26名。キャンプのリーダーは伊与田昭夫伝道師（ヒックスビル合同メソジスト教会）が務め、日米合同教会を中心として3名のカウンセラーが参加した。

2週間のキャンプ中は朝礼拝に始まり、午前、午後と聖書を学んだり、スポーツをしたりグループ活動等盛りだくさんだった。夜には2回キャンプファイアーを行った。初めて聖書に触れる参加者もいたが、違和感なく過ごせるような配慮がなされ、時間と共に深い友情で結ばれ一つの家族になったかのように感じられた。実は今年の9名中3名は昨年の参加者で、すべて自費でも参加したいとの強い意向を示されたのだった。そしてこの深い交わりは神様への信頼に繋がるのだとの思いを強くした。

最後の2日間はニューヨークの街を観る時間が与えられた。3名のカウンセラーだけでなく仲良くなったキャンプ仲間も同行してくれたため、私たちは安全に楽しく、時に笑い合いながら見聞を広げることができた。

このような貴重な機会を与えてくれたSMJ、日米合同教会、ユニオン日本語教会、宣教協力学校協議会、そして日本基督教団に心から感謝している。

（ツィー・ニン・ウィー報／宣教師、遺愛女子高等学校）

伝道委員会

愛する日本をキリストへ

小宮山　剛

主の大宣教命令により、伝道は教会に与えられた第一の使命である。

しかしながら現在の伝道委員会は、宣教委員会のもとに、社会委員会および教育委員会と並置された常設専門委員会の一つに過ぎない。

現在扱っている事柄は、教区伝道委員長会議と農村伝道に関する協議会の開催があり、諸教会にお願いしていることとして「こころの友」応援伝道、諸教会の創立記念日献金および開拓伝道援助資金献金がある。また会堂建築資金の援助と貸出を扱っている。伝道推進室および刑務所伝道も管轄である。

委員会コラム

以前からの引き継ぎ事項が多く、創意工夫による新しい伝道方策にチャレンジするという余地が人員・予算・時間の面でもなかなかなかった。しかし、伝道推進室ができてからは、伝道キャラバンや中高生大会といった大胆な試みが、自由献金に支えられてなされるようになったのは喜ばしい。

今後は、激変する時代に不変の福音を、さらに新しい自由な発想で強力に宣べ伝えていくために、伝道を柱に据えた教団機構の改革が必要であろう。同時に、日本伝道の研究も多角的な視点でなされなければならないと思っている。日本は決して福音から遠い国などではない。

愛する日本をキリストへ！の熱い祈りをもって共に主に仕えていきたい。

（伝道委員長）

▼世界宣教委員会▲

宣教師人事について報告・承認

第2回世界宣教委員会が、9月11～12日、教団会議室を会場に開催された。今回より、日本キリスト教社会事業同盟の世界宣教委員は長沢道子委員から宮本和武委員に交代した。

委員会冒頭に林田義行教師より、台湾の高雄日本語教会での長年にわたる働きについて報告を聞いた。

宣教師人事に関しては以下のことが報告・承認された。

久山康彦宣教師（センテナリー合同メソジスト教会）は、2018年6月をもって引退、吉岡恵生宣教師は（シカモア組合教会）ビザ更新のため9月19日～10月19日に一時帰国、坐間豊宣教師（バンクーバー日系人合同教会）は2018年6月30日に任期満了、一時帰国していた知花スガ子宣教師（ピラポ自由メソジスト酒井兄姉記念教会）は9月12日にパラグアイに戻る。川合望教師（パイン合同メソジスト教会）はビザ申請から1年以上経過したが、ビザが認められず宣教師辞任を承認した。

主な協議事項は以下の通りである。

日本基督教団内（関東教区と中部教区）に関係教会が4つある、インドネシアのミナハサ福音キリスト教会と日本基督教団との宣教協約草案について確認、世界宣教委員会としてはこの協約を推進していきたいと願っている。2018年6月27日～7月6日にドイツで開催されるEMS国際青年ワークショップに参加する青年を自己負担10万円にて公募する。今年は台湾やドイツに青年を送り出したが、これからも日本の青年を国際的な場所、集会に送り出したい。

終わりにウェイン・ジャンセン委員より、「アメリカ改革派教会と日本基督教団の歩み」について発題を聞いた。

（西之園路子報）

公　告

教師検定委員会では、教師検定規則第6条⑥に基づき、同規則第3条6号対象者（所謂Cコース受験者）に対する認定面接を下記のように実施します。

2018年秋季試験以降に新たにCコース受験を志願される方は、本委員会の指定した書類を2018年1月12日（金）までにご提出いただき、下記日程の面接にご出席ください。なお、面接要領・提出書類用紙については、百円切手を同封の上、本委員会事務局に直接お申込みください。

★認定面接

日時　2018年2月22日（木）15時～（予定）

場所　日本基督教団4階小会議室

なお、認定面接予定者には、書類受付後、案内通知を送付します。

2017年10月7日

日本基督教団教師検定委員会

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18-31

（電話03-3202-0546）

訃報

木村武志氏（隠退教師）

17年8月7日逝去、74歳。福島県生まれ。69年東京神学大学大学院卒業。同年より油木、船越、鹿屋教会を牧会し、04年隠退。遺族は妻・木村会津子さん。

髙橋義夫氏（隠退教師）

17年8月12日逝去、86歳。大阪府生まれ。55年東京神学大学大学院卒業。同年より山手、金町教会を牧会し、12年隠退。遺族は妻・髙橋福子さん。

笹森建美氏（駒場エデン教会担任教師）

17年8月15日逝去、84歳。青森県生まれ。59年青山学院大学キリスト教学科卒業。同年より青山学院教会を牧会し、在外教師を経て、青山学院に務め、駒場エデン教会を牧会。遺族は妻・笹森在子さん。

野波　洋氏（隠退教師）

17年8月23日逝去、73歳。大阪府生まれ。69年同志社大学大学院卒業。同年より松山東雲学園に務め、福知山教会を牧会し、14年隠退。遺族は妻・野波志都子さん。

第57回「キリスト教教育主事」認定試験公告

第57回（2018年）「キリスト教教育主事」認定試験を次のとおり行います。

◆受験願書提出期限　2017年12月11日（月）
（提出物1～7を教区に提出）

◆論文提出期限　2018年1月26日（金）
（試験科目ハの論文・教団教育委員会に提出）

◆試験期日　2018年3月9日（金）
午前11時～午後2時

◆試験場所
〒540-0004 大阪市中央区玉造2-26-47
TEL06-6761-8562
大阪クリスチャンセンター会議室

◆試験科目
イ. 筆記試験　日本基督教団教憲、教規および諸規則（60分）
＊試験時間に日本基督教団「教憲教規および諸規則」を貸し出します
ロ. 面接
ハ. 論文　400字詰原稿用紙15～20枚「日本におけるキリスト教教育の歴史と展望」

◆提出物
◎以下の書類を整え必ず期限までに教区事務所に提出する。
1. 受験願書・所属教会主任教師の推薦書…1通
2. 履歴書・信仰歴…1通
3. 教区の推薦書…1通
（以上は教育委員会所定のもの）
4. 出身学校校長の推薦書…1通
5. 出身学校成績証明書…1通
6. 「私はなぜキリスト教教育主事をめざすのか、召命との関連で」記述書　400字詰原稿用紙2枚程度
7. 受験料　5,000円
教育委員会所定の用紙は、〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18-31 日本基督教団教育委員会に、住所、氏名を記した返信用封筒に130円切手を添えて請求してください。

◆問い合わせ
日本基督教団教育委員会　〒169-0051
東京都新宿区西早稲田2-3-18-31
TEL03-3202-0544
FAX03-3207-3918

2017年10月
日本基督教団教育委員会　委員長　具志堅篤

Title: 教団新報4869最終.eca Page: 4 Date: 2017/10/03 Tue 10:34:11

インドネシア キリスト教世界青年大会

今回、4月21日から25日にかけてインドネシアのミナハサ福音キリスト教会とインドネシア政府が共催した復活祭祝賀会（イースター・セレブレイション）に招待を受けて、秋山徹世界宣教委員長と共に参加した。これに合わせて、キリスト教世界青年大会2017（グローバル・クリスチャン・ユース・カンファレンス）がマナドで行われた。青年大会プログラムは数日間に亘って行われた。

会場のシンテーザ・ペニンシュラ ホテル（マナド）にて

この青年大会では、インドネシアの地元の参加者の方も含め、14カ国以上から来た青年が、「平和への渇望」という主題を掲げ、如何にして国境を越えて若い世代が国際的な平和実現のために協力して行くことができるかが話し合われた。

大会では、幾つかの講義を通して発題がなされ、その中の一人の発題者が、「若い力が集まる時に、様々な葛藤の中にある彼らの活力を如何に過激化ではなく、社会的貢献へと昇華させられるか」が一番大きな課題だと言っていたことが強く印象に残っている。

また、続く発題では、インドネシアの多くの諸島で経済的・教育的な格差が存在する現状が示され、世界規模でこうした格差の問題に取り組むためにも、今の時代には青年への適切な励ましや力づけ（エンパワーメント）、リーダーシップが求められているとの訴えがあった。

この格差問題への具体的な取り組みの一例として、社会的企業（ソーシャル・エンタープライジング）という取り組みについて紹介されていた。インドネシア出身のキリスト者、グロリア・モーガン氏はLeleFoodという会社を立ち上げ、貧困地域の村落での商品の生産から販売までの工程を軌道に乗せて、継続可能な収入を確保するという働きをしていることが紹介された。彼女の行動力に驚かされると共に、モーガン氏が大会に参加している青年に、社会的企業への意識を高めるよう呼びかける中で、「神様がいつも女性たちと共に生きて働いて下さっていた。いかに難しく見えることでも、神様が道を必ず切り開いて下さる」という彼女の信仰の証しを見ることが出来た。

また唯一神への信仰を国民の義務とするインドネシアの建国5原則（パンチャシラ）についても触れられ、インドネシアの全ての国民が何かしらの信仰を持つ中で、インドネシアのミナハサ半島におけるキリスト教徒は、特にイスラム教との対話と宗教的協和とが重要課題となっていることが紹介された。その後グループに分かれて、それぞれの国でキリスト者が置かれている状況や課題を共有する時間を持った。

今回の青年大会は、キリストによって和解の使者として遣わされている私たちが、積極的な祈りと行動を持って世界の平和のために関われるかを問うものだった。この問いかけが若い世代の人々の心に響くためにも、教会には、彼らを励まし活力を与える信仰の言葉が求められていることを痛感した。

（疋田義也報）

部落解放青年ゼミナール

毎年夏に行われる部落解放青年ゼミナールも、多くの方のお支えによって支えられ「第20回部落解放青年ゼミナール『踏み出す、一歩 つくり出す、解放～滋賀に来るなら平和どう?～』を8月22～24日に滋賀県近江八幡市の近江金田教会を会場に開催しました。30数名が参加し、多くの出会いや学びがありました。

例年のように、入門講座や狭山事件学習会、フィールドワークなどのプログラムに加え、今年は八幡の名産である八幡靴をかたどった「ミニ八幡靴」のレザークラフトも行いました。元靴職人の方や、その方が普段クラフトを教えている教室の生徒のみなさんに教わりながら、靴作りの歴史の一端に触れることができました。

体験学習の中で、地域の方から「楽しさ」を前面に押し出した運動の歴史があった、というお話をお聞きしました。例年であれば、そこに被差別を体験された方の証言が伴うのですが、今回はそれがなかったことに違和感を覚える参加者もいました。その後、教会へ帰ってきて様々な議論がありましたが、私たちは、地域の方が語られたことにどのような思いが隠されていたのかを想像することが必要である、という意見がでました。「楽しさ」の奥にどのような思いがあったのか。なぜそれを言われなかったのか。その「見えないもの」に思いを馳せることの必要性を痛感させられました。

また同時に、被差別の証言をそれとして「消費」してしまわないこと、そして被差別者を対象化してしまわないことが重要である、という意見も出ました。「あぁ、聞けてよかった」「行ってよかった」で終わってしまうのではなく、自分自身を被差別者となる可能性がある存在として、あるいは意識せずとも差別している存在として自覚することで、与えられた経験を「知識」としてではなく、「知恵」として学んでいくことが重要であると感じました。

次回の青年ゼミも多くの出会いと学びが与えられる会となることを祈りつつ、日々の生活を歩んでいきたいと思います。

（片岡希望報）

《公募》EMS主催
国際青年ワークショップ

◎日時　2018年6月27日～7月6日
◎場所　ドイツ・シュパンゲンベルグ
◎内容　リーダーシップトレーニング
◎募集条件　＊英語でコミュニケーションが出来る者　＊2名（男女1名ずつ）
＊EMSで選考有り
◎費用　参加費15万円（内、自己負担10万円）
◎共催　南アフリカ・モラヴィア教会青年同盟
◎問い合わせ　国際関係委員会
Email：ecumeni-c @ uccj.org
◎締め切り　10月27日（金）　詳細は、
http://uccj.org/news/27255.html

人ひとき

末光　眞希さん

「神様の出来事」に聞く科学者として

1953年、札幌市生まれ。仙台東一番丁教会員。

「聖書は、神様の出来事の実験ノート」、応用物理学者、そして熱心なキリスト者である末光眞希さんは、2つの足場を結び付けてこう語る。

クリスチャン4代目、親戚の信仰を辿れば主要な教派を網羅する「教派のデパート」のような家系に生まれた。大学紛争の残り火がくすぶる時代、確固たる人生の指針を求め、主イエスに尋ねて行く信仰を与えられた。大学生の頃から通う仙台東一番丁教会で、長老、聖歌隊指揮者、奏楽者、教会学校校長等の奉仕を担う。

一方、仕事は、高校時代に物理に関心を持ち、東北大学で学んだ後、研究者の道に進んだ。電気通信分野で最先端を行く東北大学電気通信研究所で、半導体結晶薄膜の成長を研究して来た。

「理系の人間と聖書の信仰は相性が良い」と末光さんは語る。神学者・大崎節郎氏のバルト研究会に参加する中で、「信仰の対極は思弁」、「思弁としてではなく事柄として」との言葉が印象に残った。まず「事柄」があり、信仰が起こり、神学が立ち上がるという流れは、実験によって事柄と向かい合う理論物理学の在り方と似ていると思ったのだそうだ。

研究を本務としつつ、東北大学で教鞭を執る末光さん。「人間が設けた区分けの中で、自分の関心の中に閉じこもることから自由になる力を養い、違ってみえることの中にあるつながりを見出す喜びを味わってほしい。そこに真の教養がある」と語る。

信仰者として研究と教育に真摯に携わる姿勢が注目され、15年～16年、河北新報科学欄のコラム連載を依頼された。毎回、周囲にある二項対立の図式を取り上げ、違いを知りつつ、一つ上の高みに出ることに役立つ思考の補助線を引くことを目指した。

「神様の出来事」に聞く一人の科学者を通して、確かに証しの出来事が起こっている。

その時の真実に生きる幼児

毎年幼稚園の年長組は、幼稚園でお泊り保育をする。その開会礼拝でのことだ。礼拝の聖書の言葉は、年長組の今年度の主題聖句だ。その年度の始めに、その年その年の主題聖句を定めてきた。お泊りへの期待で子供たちの心が高まっている中での開会礼拝。「隣人を自分のように愛している人」との問いに即座に迷うことなく手を高く上げて一斉に「ハーイ」と元気が良い。この幼児の反応に感動。「隣人を愛している人」、「自分を愛している人」と重ねて問う問にも同様の反応だ。保育者は誰も手を上げない。「先生は手を上げないんだ」と言って同じ問を繰り返したが、結果は同じだった。「お友達に大好き大好きと言われたら、自分が大好きになるよね。反対にお友達から大嫌い大嫌いと言われ続けたら、自分が大嫌いになるよね」、「自分が大嫌いになったら悲しいね」と話した。

「隣人を愛している心」でのお泊り保育は、例年と違っていた。母親から離れて不安の中で、泣く子はいなかった。大好きな友達とのお泊り保育、心が安定していた。「瞬間、瞬間、その時の真実に生きる幼児」とのある保育者の言葉をかみしめた。礼拝後、あの瞬間を写真に収めたいと思って、再度問い、あの場面を写真に収めることができた。この写真を見たら、一人の保育者が手を上げていた。「えっ、嘘ー」と言ってしまった。幼児の心から遠い自分を思い知った。

（教団総会議長　石橋秀雄）